



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年10月27日

上場会社名 株式会社ヤマナカ 上場取引所 名
コード番号 8190 URL <https://www.super-yamanaka.co.jp>
代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）中野 義久
問合せ先責任者（役職名）執行役員経営企画室長（氏名）打田 稔（TEL）052-413-7232
半期報告書提出予定日 2025年10月28日 配当支払開始予定日 2025年12月1日
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年3月21日～2025年9月20日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期中間期	41,419	△2.6	△45	—	26	△86.1	△40	—
2025年3月期中間期	42,527	△1.6	128	△61.5	192	△52.7	142	△41.2

（注）包括利益 2026年3月期中間期 173百万円（173.0％） 2025年3月期中間期 63百万円（△89.3％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	△2.10	—
2025年3月期中間期	7.50	—

（注）営業収益は、連結損益計算書の「売上高」と「営業収入」を合計して記載しております。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期中間期	42,454	17,481	41.2
2025年3月期	41,827	17,401	41.6

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 17,481百万円 2025年3月期 17,401百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2026年3月期	—	5.00			
2026年3月期（予想）			—	5.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年3月21日～2026年3月20日）

（％表示は、対前期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	87,000	3.0	1,100	87.9	1,200	64.3	800	169.7	42.05

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期中間期	20,425,218株	2025年3月期	20,425,218株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	1,380,254株	2025年3月期	1,383,054株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2026年3月期中間期	19,043,564株	2025年3月期中間期	19,007,257株

(注) 期末自己株式には、「株式給付信託(BBT)」に係る信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式(2026年3月期中間期37,900株、2025年3月期40,700株)が含まれております。また、期中平均株式の算定上控除する自己株式には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式(2026年3月期中間期39,300株、2025年3月期中間期75,573株)が含まれております。

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社としては約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当中間期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結会計期間	7
中間連結包括利益計算書	8
中間連結会計期間	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続いている一方、資源価格や原材料価格の高騰、円安による物価の上昇、世界情勢の緊迫化など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

食品小売業界におきましては、エネルギー価格や原材料価格の高騰により、食品はもとよりあらゆる物の値段が上昇していることや実質賃金の減少に伴い、消費者の節約志向が依然として継続しております。またスーパーマーケットの運営にあたっては、最低賃金の上昇と労働力不足により人件費全体が高騰しており、厳しい経営環境が続いております。

こうした状況のなか、お客様の節約志向へ対応するため、ヤマナカオリジナル商品をお試しセールや増量セール、よりどりまどめ買いセールなどにより拡販に努めました。また、POPのサイズやデザイン、取り付け方法の見直しを行い、お客様へのお値打ち商品の情報発信をよりわかりやすくする変更を行いました。

さらに、お客様にとって価値ある“ヤマナカ・フランテならでは商品”の開発強化・販売強化に取り組みました。今期よりヤマナカにて販売を開始した、厳選した国産牛を使用した国産牛の新ブランド「暁(あかつき)」に加え、全国の産地からバイヤーが選りすぐった国産黒毛和牛「雅(みやび)」を新ブランドとしてフランテ店舗で販売を開始しました。加えて、週単位でお客様が「今、欲しい商品」を「重点商品」として選定して拡販し、その好事例を全店において横展開する取り組みを推進しております。

2027年3月期までの中期3ヵ年計画の2期目として引き続き、持続的成長を確かなものにする為に「戦略の3本柱」を策定し、①既存ビジネスモデルの進化、②経営効率の向上、③イノベーションの創造に取り組んでおります。

既存ビジネスモデルの進化では、「好事例の横展開と経営資本の傾斜配分」を掲げ、ヤマナカ店舗では、改装等を経て業績が好調な店舗の施策の他店舗への横展開及び最新売場への改装を進めています。フランテロゼ3店舗(覚王山・八事・白壁)では、東海地方で唯一無二の店舗となるようフランテロゼコンセプトの磨き上げを行っております。フランテ店舗では、フランテブランドの向上と収益拡大を進めております。

また、店舗全体の接客・接客向上を目指し全従業員に向けた教育を積極的に実施し、「ヤマナカ接客・接客コンテスト」を開催しました。

経営効率の向上では、不採算店舗の業績改善に取り組んでおります。また、従業員の能力開発による多能化で生産性の向上を進めており、従業員の能力向上のための教育・研修体制の整備を行い、階層別研修に加えて新たに選抜研修を実施しました。また、従業員の働く環境の整備として、役職定年の廃止や休暇制度等の見直し・改善を実施しました。さらに、店舗における最新設備や什器の導入による業務・作業の効率化・簡素化を進めるとともに、本部における新たなシステム導入・更改、デジタル化によるペーパーレスやワークフローの更なる活用を進め、労働生産性の向上に努めております。

イノベーションの創造では、新たなチャレンジに経営資本を傾斜し、ビジネスチャンスの拡大を図っております。改装店舗ではスマホの位置情報を使ったデータマーケティングを積極的に活用し、お客様のニーズにあった売場作りを行っております。また、デジタル技術を活用してビジネスモデルの変革をもたらすために、デジタル人材の育成を積極的に行っておりまいます。

店舗施策におきましては、2025年7月に柴田店(名古屋市中区)、8月につるまい店(名古屋市中区)、9月にアルテ津新町(三重県津市)などをリニューアルしました。生鮮部門強化施策をさらに強化・充実させるべく、生鮮・惣菜売場を拡大し鮮度・品質・産地にこだわった商品を多数取り揃えるよう店舗改装を実施し、近年需要の高いトレンド商品である生活雑貨や調理器具、食品を扱う専門店の商品を取り揃えるなど、今まで以上に選びやすく買い回りしやすい売場へ刷新しました。

販売施策におきましては、ヤマナカオリジナルキャラクター「やまるん」を制作し、やまるんスタンプラリー、やまるんグッズがもらえる企画などを行いました。また、ポイント増し増しセールやメーカーとコラボした企画を多数実施しました。

地域社会に向けた取り組みにおきましては、これまでのレジ袋収益金の一部を活用し地元自治体などに寄付をしてきたことに対し、知多市より知多市制施行55周年記念式典において表彰されるなど、地域貢献に努めております。

環境施策については、予約販売強化や商品在庫適正化による食品廃棄物の削減に取り組むとともに、太陽光パネルの活用や冷凍ケースや空調の更新によるCO₂排出量の削減、プラスチック製資材の使用量削減、食品リサイクルなど、地球環境に配慮した取り組みを継続しております。CO₂排出量の削減においては2030年までに2013年度比46%削減する目標に対し44.1%削減、プラスチック製容器包装使用量削減においては2030年までに2018年度比累積25%削減する目標に対し、累計26.8%削減しました。フードロス削減においては2030年までに食品リサイクル率90%以上の目標に対し96.2%となり、2021年以降リサイクル率90%以上を維持しております。

リスクへの対応については、お客様と従業員の命を守ることを徹底するため、南海トラフ地震などの大規模な自然災害への対応として既存のBCPマニュアルを抜本的に見直し、より実効性のあるBCPの策定に取り組みしました。

また、システム更改に伴う都合により、かねてより計画していた衣料品事業の縮小を実行しました。ヤマナカの9店舗にて展開しておりました衣料品・生活雑貨ブランド「エスポ」につきましては、エスポ商品の販売を中止いたしました。また18店舗においても衣料品売場の大幅な縮小を行いました。縮小した後は、後継テナントに入店してもらったり、食品売場を拡大したりしました。

以上のような施策の実践により、当中間連結会計期間における経営成績は、売上高に営業収入を加えた営業収益は、414億19百万円(前年同期比2.6%減)となりました。利益面においては、営業損益は45百万円の損失(前年同期は128百万円の利益)、経常利益は26百万円(前年同期比86.1%減)、親会社株主に帰属する中間純損益は40百万円の損失(前年同期は142百万円の利益)となりました。なお、セグメント別の実績については、当社グループは「小売事業及び小売周辺事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態の状況

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ6億26百万円増加し、424億54百万円となりました。これは主に有形固定資産が2億52百万円減少したものの、現金及び預金が6億67百万円、投資有価証券が3億59百万円増加したことによるものです。

負債は前連結会計年度末に比べ5億46百万円増加し、249億72百万円となりました。これは主に有利子負債が5億38百万円増加したことによるものです。

純資産は前連結会計年度末に比べ79百万円増加し、174億81百万円となりました。これは主に利益剰余金が1億34百万円減少したものの、その他有価証券評価差額金244百万円増加したことによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は前連結会計年度末と比べ、6億67百万円増加し、48億73百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、13億3百万円(前年同期は、5億4百万円の収入)となりました。これは主に、減価償却費が6億66百万円、仕入債務の増加が2億50百万円、未払金の増加が1億円であったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、10億39百万円(前年同期は、5億53百万円の支出)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が10億67百万円であったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、4億4百万円(前年同期は、6億14百万円の収入)となりました。これは主に、有利子負債の増加によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、現時点においては、2025年4月28日公表の予想数値に変更ありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月20日)	当中間連結会計期間 (2025年9月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,269	4,936
売掛金	1,579	1,579
商品及び製品	2,657	2,695
仕掛品	0	0
原材料及び貯蔵品	42	47
その他	1,053	984
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	9,603	10,243
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,713	7,471
土地	13,103	13,103
その他(純額)	1,344	1,333
有形固定資産合計	22,160	21,908
無形固定資産		
借地権	216	211
ソフトウェア	335	322
その他	89	29
無形固定資産合計	641	563
投資その他の資産		
投資有価証券	3,539	3,898
差入保証金	4,044	4,012
繰延税金資産	25	25
退職給付に係る資産	1,525	1,526
その他	306	297
貸倒引当金	△42	△41
投資その他の資産合計	9,399	9,719
固定資産合計	32,201	32,191
繰延資産	22	19
資産合計	41,827	42,454

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月20日)	当中間連結会計期間 (2025年9月20日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,589	4,839
短期借入金	200	200
1年内償還予定の社債	607	482
1年内返済予定の長期借入金	2,409	2,789
未払金	1,883	1,238
未払費用	1,028	1,094
未払法人税等	136	118
賞与引当金	231	234
契約負債	1,403	1,497
その他	334	390
流動負債合計	12,822	12,884
固定負債		
社債	1,438	1,197
長期借入金	6,214	6,775
リース債務	240	203
繰延税金負債	899	996
役員株式給付引当金	48	48
長期預り保証金	796	810
資産除去債務	1,864	1,881
その他	101	176
固定負債合計	11,603	12,088
負債合計	24,425	24,972
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,220	4,220
資本剰余金	6,538	6,538
利益剰余金	6,643	6,507
自己株式	△2,039	△2,037
株主資本合計	15,362	15,229
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,452	1,696
退職給付に係る調整累計額	587	555
その他の包括利益累計額合計	2,039	2,252
純資産合計	17,401	17,481
負債純資産合計	41,827	42,454

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年3月21日 至 2024年9月20日)	当中間連結会計期間 (自 2025年3月21日 至 2025年9月20日)
売上高	41,400	40,299
売上原価	29,459	28,544
売上総利益	11,940	11,754
営業収入	1,127	1,120
営業総利益	13,067	12,874
販売費及び一般管理費	12,939	12,920
営業利益又は営業損失(△)	128	△45
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	43	46
持分法による投資利益	4	7
情報提供料収入	31	31
その他	33	49
営業外収益合計	112	135
営業外費用		
支払利息	33	51
社債発行費償却	4	3
その他	11	8
営業外費用合計	49	63
経常利益	192	26
特別利益		
投資有価証券売却益	10	8
特別利益合計	10	8
特別損失		
固定資産除却損	29	29
減損損失	7	2
特別損失合計	36	32
税金等調整前中間純利益	166	3
法人税、住民税及び事業税	24	41
法人税等調整額	△0	1
法人税等合計	23	43
中間純利益又は中間純損失(△)	142	△40
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に 帰属する中間純損失(△)	142	△40

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年3月21日 至 2024年9月20日)	当中間連結会計期間 (自 2025年3月21日 至 2025年9月20日)
中間純利益又は中間純損失(△)	142	△40
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△59	244
退職給付に係る調整額	△19	△31
その他の包括利益合計	△79	213
中間包括利益	63	173
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	63	173
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年3月21日 至 2024年9月20日)	当中間連結会計期間 (自 2025年3月21日 至 2025年9月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	166	3
減価償却費	640	666
減損損失	7	2
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△0
賞与引当金の増減額(△は減少)	3	3
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△52	△46
受取利息及び受取配当金	△43	△47
支払利息	33	51
持分法による投資損益(△は益)	△4	△7
固定資産除却損	29	29
売上債権の増減額(△は増加)	56	0
未収入金の増減額(△は増加)	△124	46
棚卸資産の増減額(△は増加)	△19	△42
仕入債務の増減額(△は減少)	193	250
投資有価証券売却損益(△は益)	△10	△8
未払金の増減額(△は減少)	36	100
未払費用の増減額(△は減少)	40	61
契約負債の増減額(△は減少)	△52	93
預り金の増減額(△は減少)	△8	2
その他	△88	197
小計	802	1,356
利息及び配当金の受取額	43	47
利息の支払額	△32	△46
法人税等の支払額	△309	△54
営業活動によるキャッシュ・フロー	504	1,303
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1	—
定期預金の払戻による収入	6	—
有形固定資産の取得による支出	△614	△1,067
有形固定資産の除却による支出	△33	△46
無形固定資産の取得による支出	△3	△5
有形固定資産の売却による収入	—	0
投資有価証券の売却による収入	16	10
関係会社株式の取得による支出	—	△0
差入保証金の差入による支出	△34	△0
差入保証金の回収による収入	112	34
預り保証金の受入による収入	6	39
預り保証金の返還による支出	△6	△5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△553	△1,039

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年3月21日 至 2024年9月20日)	当中間連結会計期間 (自 2025年3月21日 至 2025年9月20日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	2,900	2,300
長期借入金の返済による支出	△1,100	△1,359
社債の償還による支出	△1,005	△366
リース債務の返済による支出	△90	△75
配当金の支払額	△95	△95
自己株式の売却による収入	6	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	614	404
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	565	667
現金及び現金同等物の期首残高	3,694	4,205
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,259	4,873

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前中間連結会計期間(自 2024年3月21日 至 2024年9月20日)及び

当中間連結会計期間(自 2025年3月21日 至 2025年9月20日)

当社グループは、「小売事業及び小売周辺事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。